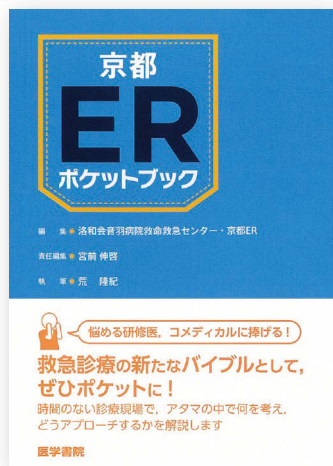


今月の特集関連本



京都 ER ポケットブック

洛和会音羽病院 救命救急センター・京都ER＝編集

宮前伸啓＝責任編集

荒 隆紀＝執筆

本体 3,500 円＋税／A6 判・416 頁／医学書院／2018

特集ご執筆の荒 隆紀先生 (p.31) の初期～後期研修の集大成本。「救急が怖くて仕方がなかった」と言う荒先生が、その恐怖・不安を克服すべく突き詰め書きためたものが 1 冊の本に。

ER で救急搬送された患者の緊急対応についていけず置いてけぼり。ウォークイン患者の問診に時間がかかり、検査治療計画が立たずあっという間に 1 時間。焦る研修医！ところが上級医はごく短時間でそれらを組み立て解決し、その上系統だったフィードバックまでこなす。上級医は、頭の中でこう考え、こうアプローチしている！ p.34 に書評あり。



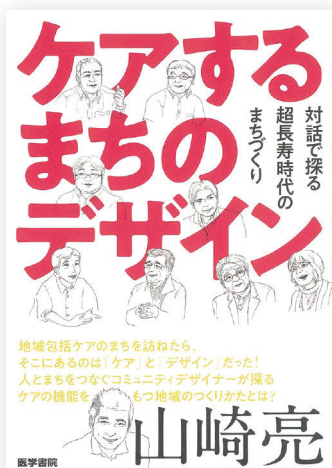
プライマリ

地域へむかう医師のために

松村真司＝著

本体 2,200 円＋税／A5 判・208 頁／医学書院／2008

「家庭医」「プライマリ・ケア」「総合医」「地域診療」「かかりつけ医」、新しい言葉は数あれど、日本にはいつだって「赤ひげ」がいた。総合医時代の到来を控え、日本のジェネラリスト黎明期を模索してきた俊英も不惑を過ぎ、その積もる思いを、ついに吐露する時が来た。若手じゃなくなってゆく世代に“普通であり続ける”ことを語る畢生の 1 冊。その書影のごとく、総合診療を志す医師の“灯台”になる本。本特集ご執筆の横田雄也先生 (p.69) の座右の書。



ケアするまちのデザイン

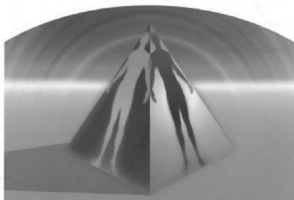
対話で探る超長寿時代のまちづくり

山崎 亮＝著

本体 2,000 円＋税／A5 判・202 頁／医学書院／2019

医療・介護・福祉が連携し、支援が必要な人々を地域で支える「地域包括ケア」。そこに住民の主体的な支え合いを加えた「地域共生社会」が提唱されている。しかし、その実現は各地域に委ねられているのが現状だ。本書では、地域課題を住民たちが解決する手助けをする「コミュニティデザイン」の第一人者が地域包括ケアの先進地域を訪ね、「地域共生社会をつくるもの」を探る。答えは、ケアとデザインを組み込んだまちづくりにあった！本特集ご執筆の櫻井広子先生 (p.46) も、すでに「まちづくり」を視野に入れています。

近藤克則



社会政策学会賞(奨励賞)受賞!

THE 4th OF JULY

本体 2,500 円+税/A5 判・208 頁/医学書院/2005

人々から健康と幸福を奪っているものは何なのか？本書では、わが国に広がる「健康格差」に注目。ゆき過ぎた経済格差社会は「負け組」だけでなく「勝ち組」の健康までも悪化させること、また人間同士の温かなつながりや信頼、安心感が健康を促進させる事実を、社会疫学の理論と実証データで示した。心の病いが増加する現代において、健康社会実現のヒントに満ちた1冊。同著者の「健康格差社会への処方箋」(2017)、「検証『健康格差社会』介護予防に向けた社会疫学の大規模調査」(2007)もあり。

の物語



「なぜ病院で治らなかったのに、在宅で良くなったのですか？」

「そういう人生も、あっていいんじゃないですか」

短義典・多死社会を迎えたこの国で、人が安心して死ねる住まいをめざすチームが富山黒部市にある。家族のような病院づくりをめざした医師と、患者固有「ものがたり」に導いたケアを追求する看護師と介護福祉士たち。全国から熱い注目を集めるナラティブホームはなぜ誕生し、どのような道程を、何をめざすのか。明日の医療をささえる希望の物語を、まだ見ゆ仲たけちへ――

医学部

本体 1,800 円＋税／A5 判・272 頁／医学書院／2015

超高齢・多死社会を迎えたこの国で、人が安心して死ぬる住まいを目指したチームが富山県砺波市にある。家庭のような病院を目指した医師と、患者固有の物語に添ったケアを追求する看護師と介護福祉士たち。2010 年開設以来、全国から熱い注目を集めるナラティブホームはどのように誕生し、日々運営されているのか。さらにその診療から看取り・エンゼルメイク・葬儀・アルバムづくりまで、医療者の実践の詳細を 1 冊にまとめた。

こんなとき
オスラー

『平静の心』を求めて



平島 修
徳田安春
山中克郎

日野原重明先生が
生涯の師と仰いだオスラーの知恵を
今、悩める医師に捧ぐ

医師として最も重要な資質「平静の心」とは？
100年を経ても変わらないオスラーの言葉とは？

医学書院

本体 2,400 円＋税／A5 判・200 頁／医学書院／2019

オスラー没後 101 年。医師はより複雑化する日々の臨床のなかで、患者・医療スタッフとの間で、また勉強法や進むべき進路について、多くの悩みを抱えている。本書は、「こんなときどうすればよいか？ どう考えればよいか？」という医師の悩みに対し、臨床経験豊かな 3 人のジェネラリストが、『平静の心 (Aequanimitas)』(p.57) のオスラーの哲学やパールを用いながら、今に生きる知恵を伝授！ 悩み多き医師に捧ぐ珠玉の 1 冊。